

第26回「ハートミーティング」意見交換の内容について

京都市勤務薬剤師会（市薬会）

★参加メンバーからの主な声

- 「薬剤師」という職業には、「薬を調剤（調合）する人」というイメージがあるが、行政薬剤師は、「薬」という垣根を超え、感染症対策や、環境衛生・食品衛生に関する検査、地球温暖化対策など様々な業務に携わっている。
- 東日本大震災の被災地では、約1箇月間で延べ30名の薬剤師が避難所の衛生確保等に尽力した。今回の我々の支援業務には含まれていないが、災害現場には支援物資として大量の医薬品が届けられているにも関わらず、適正な管理や仕分けができる専門家の不足により供給が遅れがちであり、薬剤師による医薬品の管理、適正な供給が大切であると感じた。後方支援の者も含め、薬剤師全員が一丸となって対応できたものと自負している。
- 感染症対策の仕事は、何か事件が発生すると注目されるが、基本は日々の地道な取組であり、平常時の技術研鑽についても怠らないように心がけている。
- 保健センターでは今回の生食用食肉の問題に際し、市民の皆様には安心していただけるよう、監視員が対象となる施設等を一件一件回り、生食用食肉の提供について理解を求めている。
- 衛生環境研究所では様々な検査を実施している。放射能検査については、抜取検査と一般依頼検査で現在までに20件以上の検査を実施した。行政が行うものだけでなく、一般依頼検査を受け付けているのは今のところ本市の衛生環境研究所だけである。
- 地球温暖化対策に関する取組は、市民や関係業界の皆様の御理解と御協力なしには成り立たないことが多い。わかりやすい言葉で伝える啓発事業の難しさを感じている。
- 薬剤師という職種ではあるが、専門的な仕事だけでなく事務的な仕事もしっかりと行い、できるだけ広い視野を持つよう、日々心がけたい。

- 職場が多岐にわたっているが、これからも、それぞれの職場で最大限力を発揮したい。

★市長からのコメント

- 専門職の人は専門の分野だけに関わるだけではなく、あらゆる職種の方が、多様に、そして、多彩に様々な仕事に関わることが求められている。これができるのが市役所であるので、資格職という枠にとらわれず、職域をどんどん拡げてほしい。
- 過酷な状況の中、被災地での防疫対策、衛生確保に従事してもらい感謝している。
- 生食用食肉の問題、今回の原発事故による食品の風評被害など、食を取巻く状況は深刻であるが、生食用食肉を提供する全施設への立入調査を実施し、全国に先駆けて放射能の一般依頼検査を開始するなど、皆さんの対応の早さは素晴らしい。
- 皆さんのいうとおり、日々の地道な取組は重要である。以前、小学校の給食室のねずみ対策を徹底的に繰り返し行ったことがあるが、「そのときに出来得ること」をしっかりと行っておくことが、その後の別の問題を未然に防ぐことになるということを実感した。
- 市民の皆様は、市役所の仕事をあまり御存知でない。私が「市役所はこんなこともしています。」というと、「そんな素晴らしいことをしているんですね。」と感心される。せっかく良い仕事や活動をしているのだから、市民の皆様に見えるような様々な工夫をして発信してほしい。
- 市民の皆様に御理解いただくためには、アピール力や専門性を超えた人間性が必要になる。
- 連携していくことが大切。連携とはつながることではなく、重なることだ。つながっているだけではお互いが理解できない。重なってこそお互い理解でき、役割を果たすことができる。嫌なこともいえる人間関係を作っていってほしい。